

レッツ トライ！

《保護者向け》

家庭学習の手引き



八幡市立南山小学校

小学 1、2 年生 学習時間の目安 30 分以上

小学校低学年は、生活習慣や家庭学習習慣を
身につけるスタートラインです

◎この頃の育ち

- 学校に通い、系統だった学習の始まりです。さまざまなことに興味・関心を持ち、自分でやっ
ていこうとする時期です。手助けをしながら、できたことは、意欲と自信につながるよう
に「よくやったね!」と笑顔でほめてあげましょう。
- 「早寝、早起き、朝ごはん」はもちろんのこと、家の手伝いや自分で学習の準備をする習慣
をつけていくことから、自ら学ぶ意欲を育てていきましょう。
- どんな出来事も、自分の都合のいいように話してしまう傾向がありますが、小さなことでも
「えらかったね」とほめてあげることが意欲へとつながります。

- ・何でも知りたがっています。
- ・頑張っていることや、よいところをほめて欲しいと思っています。
- ・一人で学習することや、やり方を決めるのは難しいです。

◎家庭学習のポイント

一緒にいてやる気をおこす

- ・学習するときは身の回りの整理整頓をさせましょう。
- ・学校からのプリントや宿題は親子で一緒に確かめましょう。
- ・学習する時間や何時までに学習を終えるか目標を立てましょう。
- ・鉛筆を正しく持てるように注意しましょう。
- ・「早寝早起き」「決まった時間に食事」「朝の排便」「正しい姿勢で座る」な
どの基本的な生活習慣が身につくと、学習の習慣も身につきます。

◎学年で身につけたい力

習慣づけの 1 年生

- ・鉛筆を正しくもって、正しい姿勢で字が書ける。
- ・ひらがな・カタカナの清音が読めて書ける。
- ・助詞「てにをは」がつく文を正しく読める。
- ・新出漢字（80字）のすべてが読め、書ける。
- ・100までの数について数えたり、表したりできる。
- ・一けたのたし算やひき算が正確にできる。
- ・時計の見方がわかる。

逃げない子にする 2 年生

- ・新出漢字（160字）の全てが読め、書ける。
- ・順序よく話をするができる。
- ・主語・述語の意味が分かる。
- ・九九がすらすら言える。
- ・たし算、ひき算、かけ算が速くできる。
- ・筆算をきれいに書きながら、計算できる。
- ・決められた長さの直線を正確に引くことができる。

日記

一緒に今日の生活を振り返り、いろいろな出来事やそのときの気持ちなどを、少しでも素直に自分の言葉で書くようアドバイスしてあげましょう。

◎こんな学習方法で

<p>国語</p>	<p>【音読】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書などを、すらすら読めるように毎日練習させましょう。 ・好きな本を手に取り毎日少しずつでも読書をさせましょう。 ・句読点に気をつけて、大きな声で読ませましょう。 <p>【漢字】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書き順に気をつけて、ていねいに正しく書かせましょう。 ・漢字ドリルなどを活用し、繰り返してていねいに書かせましょう。 	
<p>算数</p>	<p>【計算】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初は速さを競わず、楽しみながら計算に慣れるようにさせましょう。 ・正確に計算できるようになったら、少しずつスピードを上げて練習させましょう。 ・間違った問題は必ずやり直す習慣をつけさせましょう。 ・計算の手順が正しく身につくように唱えながら練習させましょう。 ・かけ算の九九が正しく覚えられるように唱えながら練習させましょう。 ・文章問題は、声に出して問題を読ませましょう。 	

◎学習しやすい環境づくりを

小学校に入学し、系統だった学習が始まる低学年では、まず、学習習慣を身につけることが大切です。一人で勉強するよりも親の姿が目に入り、言葉を交わし合えるところで学習するとよいでしょう。

例えば、夕食の用意をしているお母さんが近くにいる場所なら、宿題のわからないところをすぐ相談できます。親にとっても子どもの様子が見え、声かけもできます。親に見守られているという温かい雰囲気の中で学習習慣を身につけさせたいものです。

◎テレビ等の視聴時間にルールを

- ・テレビ等の視聴時間は、例えば1日1時間以内にする。
- ・食事の時間になったら、テレビ等の電源を切る。
- ・宿題や分担している家庭の仕事が終わってから、テレビ等を見る。
- ・見る番組・時間は家族で相談して決める。



◎家庭での関わり 3 つのつば

①子どもの話はしっかり聞く！

忙しい毎日ですが、時には時間をたっぷりにとって、目を見て子どもの話をよく聞きましょう。子どもの言うことを鵜呑みにせず、事実が明らかになるように上手に話をさせましょう。そして、この次はどうすればよいか子どもと一緒に考えるようにしましょう。

②家族も一緒にこんくらべ！

「宿題は最後までやること」を守らせましょう。最後までやったかどうかを必ず家族の目で点検しましょう。テレビやゲームも、時間のけじめをきちんと守らせましょう。根負けせずに、ねばり強く働きかけることが大切です。

③子は親の後ろ姿を見て育つ！

大人がお手本となるような「学ぶ」姿勢を見せましょう。家族ぐるみでより良い学習環境づくりに努めることが大切です。「家族みんなで読書の時間」などは効果的です。

小学3、4年生 学習時間の目安 40分以上

好奇心旺盛な小学校中学年は、学習意欲を高めるとき

◎この頃の育ち

- 自立心が芽生え、自分でやろうとすることが多くなります。行動範囲も広がってきます。自己主張や反抗などの口答えも見られるようになります。まだまだ手助けが必要です。
- みんなで行動することを好み、同じものを持ちたがります。
- 子どもの成長をとらえ、まずはしっかり聞いてやることを心がけ、家族の温かい声かけで学習に対する興味関心を高め、意識を育てていきましょう。

- ・何でも自分でやりたいと思っていますが上手くできません。
- ・手助け応援で、少しずつ自分でできるようになります。
- ・ちょっとしたアドバイス、励ましてやる気を起こします。

◎家庭学習のポイント

認め、ほめて、自信をつける

- ・学習するときは身の回りの整理整頓をさせましょう。
- ・学校からのプリントを親に手渡し、宿題を自分で確かめましょう。
(プリントは「置く場所を決める」「食事の時に渡す」などのルール作り)
- ・がんばりを見逃さず、励ましの言葉をかけましょう。
(分からないところは、答えを教えるのではなく一緒に考えてあげましょう)
- ・毎日決まった学習時間帯で学習できるようにしましょう。

◎学年で身につけたい力

分岐点を乗り越える3年生

- ・配当漢字(200字程度)のすべてが読め、書ける。
- ・主語・述語・修飾語の区別ができる。
- ・国語辞典を使うことができる。
- ・ローマ字を正しく読むことができる。
- ・かけ算の筆算や簡単なわり算などを正しい手順で計算できる。など

「9歳の壁」を破る4年生

- ・配当漢字(200字程度)のすべてが読め、書ける。
- ・国語辞典や漢和辞典を手元に置いて使い方に慣れる。
- ・文と文のつながりを考えながら、指示語、接続語を使う。
- ・割り算の筆算ができる。
- ・コンパスを正しく使うことができる。
- ・ローマ字を適切に書くことができる。
- ・47都道府県の名前を正しく書くことができる。

など

9歳の壁

人は自然に12歳までに抽象的思考ができるようにプログラムされています。

そして丁度9歳の頃に具体的思考(例:指を折って数えて答えを出す)から抽象的思考(例:式に表し計算から答えを出す)に移行するのです。しかし、うまく抽象的思考に移行することが出来ず、学習するときに混乱してしまう場合があります。これを9歳の壁といいます。

◎こんな学習方法で

国語	<p>【音読】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日1回は声を出して教科書を読ませましょう。 ・様子が分かるように気持ちを込めて読ませましょう。 ・国語辞典や漢和辞典などをそばに置いて使えるようにさせましょう。 <p>【書く】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・したことや見たこと、思ったことを日記に書かせましょう。 ・書き順、「はね」「はらい」「とめ」に気をつけて書かせましょう。
算数	<p>【計算】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かけ算の九九を忘れないように時々唱えさせましょう。 ・ノートのマス目を使って位をそろえて書くようにさせましょう。 <p>【計算の手順が正しく身につくように唱えながら練習させましょう。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章問題は、声を出して問題を読んだり、絵や図に描いたりして考えさせましょう。

◎脳の前頭前野がもっとも発達する時期

この時期から、脳の機能が大きく発達する時期と言われています。そして、テレビゲームや長時間のビデオ、テレビの視聴が脳の「前頭前野」によい影響を与えないことが分かっています。家庭でルールづくりを徹底してほしいです。

（前頭前野の大切な働き）

- ①顔の表情や声の様子から、人の気持ちを推測する働きがあります。
- ②ものを覚えるという気持ちも、前頭前野から出てきます。「覚えるためには繰り返し練習しなきゃ！」と前頭前野が教えてくれるのです。
- ③「さあ、がんばるぞ！」という「やる気」、なにかをやってみようという「やる気」「挑戦する気持ち」も前頭前野から出てきます。
- ④反対に、やってはいけないことはしない、という気持ちも前頭前野から出てきます。
- ⑤悲しいこと、くやしいしいことがあっても、人前では顔に出さずに我慢する気持ち、これも前頭前野の働きです。前頭前野がうまく働かないと、ちょっとしたことで、すぐに怒ったり、めそめそしてしまいます。
- ⑥前頭前野は、いろいろなものを発明する力も発揮します。ノーベル賞をもらうような発明や発見をする人はとても上手に前頭前野を使えるのです。音楽や絵画など、素晴らしい芸術作品を作り出す力も前頭前野の仕事です。
- ⑦周りのことを気にしないで、一つのことに打ち込む集中力は、前頭前野の働きです。反対に、2つ3つのことを、同時にできる力も前頭前野の働きなのです。
- ⑧私たちは、前頭前野を使って、いろいろなことを考えています。人とは違ったアイデアがたくさん浮かんでくるような人は、前頭前野をうまく使える人です。

◎家庭での関わり 3つのつぼ

①ほかの子と比べない！

学習に少しずつ個人差が出てくる頃です。友達や兄弟・姉妹で成長を比べることは避けて、「がんばり」.....を見逃さずに、本気でほめましょう。

②目上の人に対する言葉遣いを教える！

ご家族の電話でのやりとりや、近所の人との会話から、子どもは敬語や尊敬語を覚え目上の人とのかわり方を学びます。大人のすることをまねて、知識として覚えます。言葉だけではなく心が大切なことも教えましょう。敬語が正しく使えなくても、尊敬する気持ちを伝えることが大切なことも教えてあげてください。

③約束を決めて、守らせる！

ゲームや外遊び、自転車乗りなどは時間を決めてしっかり守らせましょう。守れないときはゲームをやらせないなどの約束をし、決まりを守る態度を育てましょう。

小学5、6年生 学習時間の目安 60分以上

小学校高学年は中学校に向け、自主性を育てるとき

◎この頃の育ち

- 自分でやろうとする心が大きく育ちます。また、一人前に接してもらえているか、大切にされているかなど、大人の評価が気になる時期でもあります。
- 自分を客観的に見ることができるようになり、友達の評価を気にし、上手に人間関係を作れないことに心を痛めることがあります。
- 考える力も大人並みになり、時には大人への反抗も見られます。
- 体も心も急激に変化します。バランスがくずれ、不安定になることがあります。学校としっかり連絡を取り合しましょう。

- ・自分でできると思っているので、言葉かけに配慮が必要です。
- ・得意な教科や苦手な教科を意識するようになります。
- ・先生や家族の言葉によって、学習に対する意欲や興味・関心が大きく左右されます。

◎家庭学習のポイント

見守って伸ばす

- ・自分にあった生活のリズムを作らせましょう。
(夕食前、早朝など学習に取り組む時間帯を決める)
- ・計画を立て自力で学習を進めるよう見守りましょう。
- ・宿題以外に自主学習をさせましょう。
- ・新聞やニュースをテーマに、家庭で話をするなど社会の動きに興味をもたせましょう。

◎学年で身につけたい力

大きくジャンプアップする5年生

- ・配当漢字(185字程度)のすべてが読め、書ける。
- ・今まで習った漢字を使った熟語を書ける。
- ・小数のかけ算・わり算が正確にできる。
- ・分数のたし算・引き算ができる。
- ・アルファベットの大文字・小文字を活字体で書くことができる。
- ・日本や世界の主要国の位置を正しく示すことができる。

中学生活に希望が持てる6年生

- ・小学校で習ったすべての漢字が読め、書ける。
- ・小学校で習った漢字を使った熟語が書ける。
- ・分数のかけ算・わり算ができる。
- ・歴史上の出来事や人物について、だいたい説明できる。
- ・重要な年号をある程度覚えている。
- ・日本国憲法の前文や三権分立など、社会用語をだいたい説明できる。
- ・アルファベットの大文字・小文字を活字体で書くことができる。

◎こんな学習方法で

※学校の宿題だけではなく予習・復習など計画的な自主学習が必要です。

国語	<p>【音読】</p> <ul style="list-style-type: none">・教科書を毎日音読させましょう。・間をとりながら読むなど自分のめあてに向かって読めるように練習させましょう。・詩や俳句、短歌などを暗唱させましょう。 <p>【書く】</p> <ul style="list-style-type: none">・漢字の構成や字形を意識して書かせましょう。・漢字ドリルなどを活用し、難しい漢字の練習を行わせましょう。
算数	<p>【計算】</p> <ul style="list-style-type: none">・考え方が身についているか、自分の方法は正しいかを教科書やノートで確かめさせましょう。・ノートの線を使って、位をそろえて書くようにさせましょう。・間違いはないか検算をしたりして答えを確かめさせましょう。・文章問題は、声に出して問題を読んだり、簡単な図に描いたりして考えさせましょう。

◎インターネット・携帯電話利用にはルールを

最近、小中学生がインターネットや携帯電話を通じて、事件や事故に巻き込まれたり、SNSを介したいじめ、メールをしていて学習に集中できないケースなどの事例も多く報告されるようになってきました。携帯電話もスマートフォンも、子どもに与えた最初が肝心です。しっかり話し合って、使い方のルール作りをしましょう。

- ・保護者が子どもの使用目的や用途を把握する。
 - i-phoneの場合、「スクリーンタイム」
 - Androidの場合、「デジタルウェルビーイング」
- ・使用時間を決める。（携帯電話であれば学習や寝る時間は預かる）
- ・できるだけパソコンは家族共有の場所に設置する。
- ・有害サイトへのアクセスを防止する（フィルタリング）

◎家庭での関わり 3 つのつば

①自主学習の習慣をつけさせる！

高学年としての自覚を持った学習をさせましょう。宿題だけをするのではなく、視野を広げるための読書や自分の趣味に費やす時間なども作らせましょう。生活のリズムを立て直し、夜更かしをしない、朝ご飯を食べる、自分のことは自分でするなどできているか、見直しさせましょう。

②よく考えて行動する習慣をつけさせる！

自分がしようとしていることの結果はどうなるか、行動する前に考えるようにさせましょう。友達に言われるままに行動したり友達に迎合したりしないで、善悪の判断を正しくできるようにさせましょう。

③子どもの存在を認めよう！

この時期の子どもたちが、反抗的な態度にでるのは、子どもにも子どもなりの言い分があるからです。よく話を聞き、納得できるものか話し合ひましょう。頭ごなしに否定することはよくありませんが、ダメなことはダメとはっきり教えましょう。